

イチモンジセセリ

Parnara guttata



種名

分類

セセリチョウ科

形態

前翅長 15～21mm。裏面は黄褐色、後翅にある4つの白斑が、直線上に並ぶのが特徴。はより翅型が横に長く、腹部が大きい。8月以降に羽化する、いわゆる秋型は大型で、地色が暗くなる。

分布

北海道(利尻島を含む)では、6～10月に記録があるが、移動個体と見られる。本州でも越冬できるのは温暖地に限られる。四国、九州でも同様。南西諸島には広く分布する。小笠原諸島では近年になって見られるようになり、まだ定着していない。

出現期

本州の暖地では、5～6月に第1世代が少数羽化。7月に第2回目、8～9月に移動個体を生じる3回目が現れる。9～10月には一部4回目以降が出現する。中齢(おもに3～4齢)幼虫で越冬する。

生態

イネの害虫として有名である。水田の周辺だけでなく、市街地から山地まで分布が広い。アザミ類、ケイトウ、キク類、ハギ類などの多くの花で吸蜜する。地上で吸水したり、腐果・獣糞で吸汁する。

食樹

イネ科のイネ、チガヤ、ススキほか。タケ科、カヤツリグサ科も食べる。

幼虫
(幼生期)

卵は灰褐色のまんじゅう型、直径1mm。終齢幼虫は体長40mm、頭部は褐色、黒褐色の斑紋がある。胴部は淡緑色、終齢幼虫は5齢、もしくは7～8齢に達することがある。葉を巻いたり、数枚の葉を吐糸でつづって巣をつくる。この巣からイネツトムシとも呼ばれる。蛹は頭部が大きく、帯蛹。巣の中で蛹化、黒褐色の円筒型をしている。体長25mm。

出現時期

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|
| (月) | - | - | - | - | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | - | - |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|

その他

参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ